

縁深い像に「感無量」

駐名古屋
中国領事ら 燕趙園を訪問



孔孟像を見学する呉領事(右)と小松社長

日本最大級の本格的所が2003年に中国

中国庭園・燕趙園(湯梨浜町)にある孔子などの石像設置に携わった中国駐名古屋総領事館の呉広華領事と小松電機産業(松江市乃木福富町)の小松昭夫社長ら関係者が7日、同園を訪れた。日中友好の懸け橋となった像を見学し、日中友好や北東アジアの平和を願った。

山東省で製造した孔子・孟子像を燕趙園に寄贈。その際、呉さんは同省棗荘市政府に勤務しており、事前調査で燕趙園を訪れたほか、石像の出発式では通訳を務めていた。

この日は呉領事とその家族、小松社長ら約10人が燕趙園を訪れた。呉領事は像が設置されているのを見るのはこの日が初めてで、「感無量です」とうれしそう。「燕趙園に中国の偉人の像があることを多くの人に知ってもらいたい」として、燕趙園を国内外へPRする必要性を強調した。

小松電機産業が設立した人間自然科学研究

大阪市の篤志家が所有していた「西王母と八仙人」の石像が小松社長

の仲介で燕趙園に移され、観光のシンボル

(石原美樹)